



総務審議官に就任して

総務審議官（国際） **もり きよし**
森 清



はじめに

私は、去る7月6日付けで、総務審議官（国際）を拝命しました。就任直後とはいえ、本日は急な話で、また10分という短時間ですので、大きな流れの話と、私が最近研究している小さな話について御紹介させていただきたいと思います。

1. 大きな流れ

大きな流れというのは、今後の予定のことです。ITUの関係では、この秋に第4世代携帯電話の周波数などを決める世界無線通信会議（WRC）と無線通信総会（RA）があります。また、11月にはアジア・太平洋電気通信共同体（APT）の事務局長選挙があります。我が国の山田俊之さん（現、APT事務局長次長）が立候補しております。そして、来年3月には、アジア太平洋経済協力（APEC）電気通信・情報作業部会（TEL）の大臣会合が日本であり、6月には経済協力開発機構（OECD）の電気通信大臣会合がソウルで

あります。その後、7月7日から9日まで北海道洞爺湖サミットが開かれます。

サミットについて言いますと、北海道洞爺湖という場所は決まっているのですが、プレスの宿舎をどこにするか、ルーツにするのか、それ以外の所にするかということがまだ決まっています。いずれにしても、光ファイバはまだ伸びていないし、携帯電話もかからないような場所なので、早く決めてほしいということをNTTさんなども外務省に言っているようです。早く決めて積雪期の前には工事をしないと本当に間に合わないという心配がございます。

● 洞爺湖サミットのコミュニケにICTを

そうしたロジの問題以外に御存じのように、2000年の九州・沖縄サミットのときは、「情報通信技術（IT）」がメインテーマでした。8年後の今回は、環境がメインになると思いますが、再び日本で開催するわけですから何とか1行でも2行でも「情報通信技術（ICT）」の文言がコミュニケに入れられないものだろうかと思っています。これは盛り上がり次第で

表1 「ICT=IT= 情報通信技術」の用語について（国際）

米国商務省レポート「The Emerging Digital Economy」（1998）では「IT」を使用①
INTRODUCTION 10 Many observers believe advances in information technology (IT) , driven by the growth of the Internet, have also contributed to creating this healthier - than - expected economy.
G8コミュニケ・沖縄2000では「IT」を使用②
G8 COMMUNIQUE OKINAWA2000 (23 July 2000) Information and Communications Technology (IT) 10 IT empowers, benefits and links people the world over, allows global citizens to express themselves and know and respect one another. (後略) 11 (略) 12 In support of these goals, we commit ourselves to pursuing the aims and ambitions set out in the Okinawa Charter on the Global Information Society. We will set up a Digital Opportunities Task Force (dot force) , which will be asked to report to our next meeting its findings and recommendations on global action to bridge the international information and knowledge divide.
G8コミュニケにおいて設立することとされたタスクフォースのレポートにおいては「ICT」を使用③
Report of the Digital Opportunity Task Force (11May 2001) Foreword (抄) Over several months, through a rich and unprecedented mix of plenary meetings, informal consultations, meetings with stakeholders, and electronic outreach to broader audiences across the world, the DOT Force has examined in depth the challenge of bridging the digital divide and harnessing the power of information and communications technologies (ICT) and global networks to assure opportunity, empowerment and inclusion for all. (後略)
国際機関では、「ICT」を使用③
World Summit on the Information Society (12 December 2003) [ITU] Declaration of Principles Building the Information Society: a global challenge in the new Millennium 8. We recognize that education, knowledge, information and communication are at the core of human progress, endeavour and well being. Further, Information and Communication Technologies (ICTs) have an immense impact on virtually all aspects of our lives. (後略)



すから、皆さんも我が国のトップリーダーの方々にお会いになられるような機会がございましたら、是非、宣伝していただくように御協力をお願いいたします。

2. 小さな話

小さな話といっても、内容は実は大きな話で、次のことを申し上げたいと思います。2000年の九州・沖縄サミットのテーマはITだったということを今申し上げましたが、用語として、ITか、ICTか、あるいは、情報技術か、情報通信技術か、どれが適切なのだろうかということを、皆さんもお考えになられたことがあると思いますが、今日はその事実関係をたどってみたいと思います。

表1の②が、沖縄サミットのコミュニケで、Information and Communications Technologyという言葉を使っております。これを素直にICTと略しておけば今日の混乱はなかったと思うのですが、これをどういうわけかITと略してしまった。当時、国際部長をやっておられた内田さんに、何でこんなことになったのかをお聞きしましたら、欧州勢がICTを主張したけれどもアメリカがどうしても譲らなかったということでした。

その一つ上、①を見てみますと、1998年の米国商務省の

レポートではInformation Technology (IT) を使っていますが、これは文字どおりITでいいわけです。ただ、その後の文章に、「…driven by the growth of the Internet,…」とあって、当時からインターネットで加速されるということを言っています。そういうわけでInformation and Communications Technologyになったわけですから、2000年の九州・沖縄サミットではICTを使っておくべきだったと思います。

ただし、その次の年、沖縄サミットで設置することが決定されたDigital Opportunities Task Forceのレポートでは既にInformation and Communications Technologies (ICT) に変わっておりますし、世界情報社会サミット (WSIS) のレポートなど、ITUではずっとICT (s) を使っています (表1③)。他の国際機関でも同様ですので、今日、国際的にはICTが定着していると言えます。世界を回っておられる方々はお分かりかと思いますが、主としてITを使っている国はアメリカと日本と韓国ぐらいです。

●国内ではいまだにIT

日本国内ではどうかと言いますと、沖縄サミットの年に「IT戦略本部」を作ったわけですが、その正式名称は、「情報通信技術戦略本部 (IT戦略本部)」でした (表2④)。年が明けていわゆるIT基本法ができましたが、その中では「情報通

表2 「ICT=IT= 情報通信技術」の用語について (国内)

IT戦略本部 (閣議決定) では「情報通信技術 (IT)」と規定④

- 1 情報通信技術 (IT) 戦略本部の設置について (2000年7月7日閣議決定)
→高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部 (IT戦略本部) (2001年1月6日)
1. 世界規模で生じている情報通信技術 (IT) による産業・社会構造の変革 (いわゆる「IT革命」) に我が国として取り組み、IT革命の恩恵を全ての国民が享受でき、かつ国際的に競争力ある「IT立国」の形成を目指した施策を総合的に推進するため、内閣に「情報通信技術 (IT) 戦略本部」 (以下「本部」という。) を置く。
- 2 情報通信技術 (IT) 担当室 (2000年8月4日内閣総理大臣決定) も同様

いわゆる「IT基本法」では「情報通信技術」と規定 (ITの用語はない) ④

○高度情報通信ネットワーク社会形成基本法 (平成12年法律第144号) (2001年1月6日施行)

第1条 (目的) この法律は、情報通信技術の活用により世界的規模で生じている急激かつ大幅な社会経済構造の変化に適切に対応することの緊要性にかんがみ、高度情報通信ネットワーク社会の形成に関し、基本理念及び施策の策定に係る基本方針を定め、国及び地方公共団体の責務を明らかにし、並びに高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部を設置するとともに、高度情報通信ネットワーク社会の形成に関する重点計画の作成について定めることにより、高度情報通信ネットワーク社会の形成に関する施策を迅速かつ重点的に推進することを目的とする。

※ 英文では、「情報通信技術」の訳語として「information and telecommunications technology」を使用。(官邸HP)

マスコミの用例

- 1 新聞各紙
「IT (情報技術)」と使用
(参考)
○記者ハンドブック新聞用字用語集第10版共同通信社 (2005年3月15日発行)
「IT情報技術 Information Technology」と掲載。ICTは未掲載。 ①
- 2 NHK
日本語放送では「IT情報通信技術」と使用。英語放送では「information technology」と使用。⑤



表3 「ICT」と「IT」の用例

略語	日本語	英文	
ICT	情報通信技術	information and communication(s) technology(ies)	DOTフォース (2001.5.11) ③
			ITU (2003.12.12) ③
IT		information and telecommunications technology	沖縄サミット (2000.7.23) ②
			IT基本法 (2001.1.6施行) ④
	information technology	NHK ⑤	
	情報技術		新聞 ①
			デジタルエコノミー (1998) ①

信技術」という言葉を使っています。ただ、このとき英訳としてInformation and Telecommunications Technologyという新しい言葉を使ってしまったものですから、またまた混乱を招いてしまいました。

新聞・テレビ等はどうかと言いますと、マスコミには用語集というものがあまして、共同通信の用語ハンドブックが権威と見なされているらしいのですが、そのハンドブックでは「IT 情報技術 Information Technology」としかなくて、「情報通信技術」もICTという語もまだ採用されていません(表2①)。ただし、NHKは一歩進んでいまして、日本語放送では「IT、情報通信技術」と必ず言い添えますが、英語放送になると「Information Technology」とだけ言ってCommunicationを落としてしまいます。何で落としてしまう

のかと聞きますと、長いのはいやだからとの答えでした(表2⑤)。いずれも言葉に敏感であるべきマスコミとしては、いかなものかと思われるような実態です。

●普及させたい正しい表現、情報通信技術 (ICT)

以上を整理してみますと、表3の①から⑤までのパターンにまとめられます。もちろん、③のパターンが一番よいわけですが、例えばITを使う場合であっても「情報通信技術」を使うのが適切なのではないのでしょうか。つまり、表3の④ぐらいまでが許容範囲ではないのでしょうか。

英語としては、当然ICT=Information and Communication (s) Technology (ies) が適切で、例外的に情報技術そのものを言いたい場合は、IT=Information Technologyを使うのがよいのかなと思います。

こういったことを、私はあちこちで言っていて、あるマスコミ関係者にも話したところ、御親切にも各社合同の用語集編纂委員会に本件のことをかけてくださり、議論していただいたようです。結果的には、しばらく様子を見ようということのようでした。皆さん方で、私が申し上げたこと以外の用例、あるいはお考えをお持ちでしたら、是非お聞かせいただきたいと思います。

御清聴ありがとうございました。

(2007年7月26日第358回ITUクラブ講演より)



ITUクラブで講演する筆者